

読書の家から



新刊案内

■あぶた読書の家

へ一般▽だから、言ったでしよ!!(米谷ふみ子)▽橘花抄(葉室麟)▽業政賭ける(火坂雅志)▽まねき通る十二景(山本一力)▽発光地帯(川上美映子)▽蓬菜屋帳外控引かれ者でございませす(志水辰夫)▽追悼者(折原一)▽安土城の幽霊(加藤廣)▽葎の髓から 完天皇の涙(阿川弘之)▽ポリテイコンへ上・下

(桐野夏生)▽保存版室蘭・登別・伊達今昔写真帖(郷土出版社)▽生命の記憶(田島征三)▽新版北海道の歴史へ上▽(長沼孝)▽まつろはぬもの(シクルシイ)▽北海道の山菜・木の実図鑑(北海道新聞社)▽北海道の動物たちはこうして生きて

いる(富士元寿彦)▽タンチョウいとこちたき さまなれど(正富宏之)▽ヒグマすくすく知床母子成長物語(今井尚二)▽エゾシカは森の幸 人・森・シカの共生(大泰司紀之/平田剛士)▽イケブクロ10PRID

(石田衣良)▽聖夜(佐藤多佳子)▽3652(伊坂幸太郎)▽役に立たない日々(佐野洋子)▽やぶへび(大沢在昌)▽アンダルシア(真保裕一)▽物書き同心居眠り紋蔵ちよの負けん気、実の父親(佐藤雅美)▽時代の果実(黒井千次)▽流転の海第六部 慈雨の音(宮本輝)▽野良猫ケンさん(村松友視)

■みずうみ読書の家

へ一般▽虚構へ上・下▽(高杉良)▽平成猿蟹合戦(吉田修一)▽プリズム(百田尚樹)▽花明かり(山本一力)▽北の無人駅から(渡辺一史)▽無冠の父(安久悠)▽水の柩(道尾秀介)▽モダンタイムス(伊坂幸太郎)▽阿修羅のごとく、幸福(向田邦子)▽ポーカークフェース(沢木耕太郎)▽3・11を超えて(河北新報社)

今月の1冊



●てんさらばさらてんさらばさら

わたりむつこ(文)
ましませつこ(絵)

「ケサランパサラン」という物の存在をご存知でしょうか?その別名を「てんさらばさら」と言うのだそうです。空から降ってきた「てんさらばさら」におしるいをかけて、人にみせないようにすると幸せになるといわれを信じているまゆ、なんだか、ほわ〜んと温かくなるおはなしです。



●開館時間
午前10時より午後4時20分まで
●1月休館日
12日・19日・26日・2月2日・9日

(毎週木曜日・祝祭日休館)
あぶた読書の家 ☎76・2100
みずうみ読書の家 ☎75・4702

わたしのうた

短歌

【あぶた短歌会】

十二月定例会



はればれと春は巡りてくるらむか
正月の晴れ着取り出し待つ
歌友と旅をともし遠き日を
列車は頭せてひた走り行く
やんわりと人の情をいただきて
春夏秋冬過にて候

赤塚 瑛子

山木 孝

大西 芳子

北島 加代

太田 智

元田 フジ子

俳句

【あぶた俳句会】

十二月定例会

おほかたは見ぬ振り冬を遣り過す
禅僧の如ならび居り冬がらす
素通りのふる里冬の波がしら
この星にオゾン泣きだす冬の雨
ポインセチア窓辺に赤い灯をともし
真冬日のひとりに秒針ひびきけり

井村 育子

那須 伶子

矢野 知子

小笠原 勇

三瓶 修

菅原 敏子